

◎ 中学年 | 「物語の読みの学習」

「物語」の情景を想像しよう ～挿し絵を比べてみよう～

○子どもが描く物語の世界

国語の学習と言えば「物語」を読むものと考えている子どもが多いようです。しかし、ストーリーの展開を追うことばかりに意識が向けられ、場面の様子を表す言葉や、表現の美しさなどに気がつく子どもは少ないようです。中学年以降の物語教材では、登場人物の心情を理解する上でも、場面の様子をしっかりと想像することが求められてきます。つまり、子どもたちを「いかに文章に向き合わせるができるか」が重要になってくるわけです。

そこで、今回は「挿し絵」を活用して、子どもたちの意識を高める方法を紹介합니다。

○「表紙絵」を描いてみよう！

物語を一読した後、一番心に残った場面をノート最初のページに「絵」で描かせ、どうしてその場面を選んだのか、その理由を書かせます。

「自分のイメージを大切にしよう」と話し、教科書を閉じておくとさらに効果的です。感想を書くことが苦手な子どもでも、「この絵は上手だね。どうしてこの場面にしたの？」などと声をかければ、それなりの感想を書くことができるようになります。

どの場面が多く選ばれたか、どのように描いたかを紹介する所から授業を始め、まとめでは初発の感想と比べて「どのように読みが変わったか」という観点から、自分の学習を振り返ることができます。

○「挿し絵」を比べてみよう！

同じ物語が他社の教科書や絵本にあれば、その挿し絵を紹介して、自分が使っている教科書の挿し絵と比べる学習を行いましょう。

自分が思い描いた場面の様子に近いのはどちらか、また、自分が挿し絵を描くとしたらどのように描く

かを考えさせます。

下の挿し絵はどちらも「ごんぎつね」の最初の場面です。左は、「ごん」が山中にひとりで暮らしているという状況に焦点があたっています。右は、雨で外へ出られずにしゃがみこんでいる「ごん」に焦点があたっています。

描く人の印象に残った場面が違えば、描かれる絵のイメージも違うことがわかります。



絵：狩野富貴子(小学国語4下:大阪書籍) 絵：かすや昌宏(国語四下 はばたき:光村図書)

挿し絵が子どもの読みに与える影響はとても大きいので、「この挿し絵を描いた人も、物語を読んで、自分がイメージした場面の様子を描いているんだね」などと話して、「文章から、自分のイメージを持つことの大切さ」を説明しましょう。

このような意識をもとにすれば、挿し絵のない場面に挿し絵を描かせ、その絵の説明をさせる過程で、文章の読みを深めることも可能になります。

○「挿し絵」のダウト(間違い)を探せ！

描かれた挿し絵をじっくり見て本文と照合してみようという学習活動も考えられます。なるほど上手に一枚の絵にまとめているなあという発見があれば、ひょっとしてこの挿し絵は間違っているのではないか、という疑問も出てくるかもしれません。

このように、子どもたちがこれまであまり意識していなかった「挿し絵」に着目する学習活動を行うことで、自分なりに場面の様子を想像するという意識が高まり、結果的に「文章にじっくり向き合って読む」姿勢を育むことができるのです。